

総合日本語コース報告 (2017年10月～2018年8月)

濱田 美和

1 はじめに

総合日本語コースは、日本語・日本文化研修留学生のために、2004年10月に開設した日本語プログラムである。富山大学の外国人留学生全体の中で、日本語・日本文化研修留学生の占める割合は低い。そのため、本コースの授業科目はいずれも日本語課外補講上級及び中級クラスとの合同授業として開講している。2005年9月に初めて本コースの修了生を送り出し、2017年10月に14期目の学生を迎えた。

以下、2017年度秋期(2017年10月～2018年2月)及び春期(2018年4月～8月)の総合日本語コースの実施状況について報告する。

2 受講者

2.1 日本語・日本文化研修留学生

「2017年度富山大学日本語・日本文化研修留学生プログラム」に参加した学生は4人で、秋期、春期ともに総合日本語コースを受講した。学生の出身国・地域はインドネシア2人、ウクライナとベトナム各1人で、所属は人文学部と人間発達科学部各2人だった。

総合日本語コースの授業科目として、2017年度は秋期と春期、各期上級9科目と中級8科目を提供した。総合日本語コースの授業科目は必修科目ではないが、本学の日本語・日本文化研修留学生プログラムの修了要件の一つとして、学部や教養教育の授業科目及び総合日本語コースの授業科目の中から各期8科目以上の履修が義務づけられている。2017年度の日本語・日本文化研修留学生の総合日本語コースの受講状況は9科目(秋期5, 春期4)が1人, 8科目(秋期4, 春期4)が1人, 6科目(秋期4, 春期2)が1人, 4科目(秋期2, 春期2)が1人だった。

2.2 協定校からの短期留学生

総合日本語コースは、日本語・日本文化研修留学生のために開設した日本語プログラムであるが、2006年10月より、本学との学術交流協定に基づく短期留学生も総合日本語コースに参加可能となり、中級レベル以上の日本語力を有する短期留学生は総合日本語コースを受講している。短期留学生については、留学期間が1年の学生が大半であるが、一部半年の学生がいること、また、留学期間が1年の学生についても秋期、春期のいずれかの期のみを受講する学生もいることから、期ごとに受講状況を述べる。

受講者数については、秋期は21人で、出身国・地域別の内訳は中国が9人、韓国と台湾が各5人、ベトナムが2人、所属別の内訳は人文学部が12人、経済学部が6人、人文科学研究科が2人、人間発達科学部が1人だった。春期は20人で、出身国・地域別の内訳は中国が7人、台湾が6人、韓国が4人、ベトナムが2人、ロシアが1人、所属別の内訳は人文学部が9人、経済学部が5人、経済学研究科が4人、人間発達科学部と人文科学研究科が各1人だった。

履修科目数については、秋期は4科目が7人, 3科目が5人, 2科目が8人, 1科目が1人, 春期は7科目が2人, 5科目が5人, 4科目が8人, 3科目が1人, 2科目が4人だった。

3 担当者

秋期は専任教員4人(小木曾左枝子, 副島健治, 田中信之, 濱田美和), 及び, 非常勤講師5人(高島智美, 中河和子, 藤田佐和子, 松岡裕見子, 要門美規), 春期は専任教員4人(小木曾左枝子, 副島

健治, 田中信之, 濱田美和), 及び, 非常勤講師 4 人 (田上栄子, 藤田佐和子, 松岡裕見子, 要門美規) が授業を担当した。いずれの期も専任教員の濱田がコースのコーディネートをを行った。

4 スケジュール

秋期は, 2017 年 10 月 10 日 (火) ~ 2018 年 2 月 8 日 (木) を授業期間, 2 月 9 日 (金) ~ 2 月 19 日 (月) を補講期間とした。12 月 25 日 (月) ~ 1 月 4 日 (木) は冬季休業, 1 月 12 日 (金) は大学入試センター試験準備日のため, 休講とした。また, 曜日調整のため, 1 月 11 日 (木) と 1 月 9 日 (火) は月曜日の授業を行った。春期は, 2018 年 4 月 11 日 (水) ~ 7 月 30 日 (月) を授業期間, 7 月 31 日 (火) ~ 8 月 6 日 (月) を補講期間とした。曜日調整のため, 5 月 2 日 (水) は月曜日の授業を行った。

学期ごとにコーディネーターの濱田がオリエンテーションを行った。実施日は, 秋期は 2017 年 10 月 4 日 (水), 春期は 2018 年 4 月 5 日 (木) である。オリエンテーションでは, 学生に各授業科目の目的, 理解達成目標, 授業計画等を掲載した授業概要の冊子 (授業概要は国際機構ホームページ上にも掲載, Web 版は日本語と英語での閲覧が可能) を渡し, コースの内容, 各授業科目の詳細について説明を行った。春期のオリエンテーションでは, 履修の際の参考となるよう, 秋期の学業成績通知書を学生に渡している。履修登録は, 授業開始後 1 週間以内に行い, 履修登録を行った授業科目について学期終了時に成績を出すシステムとしている。

5 授業内容

総合日本語コースは, 上級及び中級レベルの日本語課外補講の授業と合同で授業を行っているが, 日本語課外補講は成績評価が必要でないため, 授業科目によっては必要に応じ, 総合日本語コースの受講者だけに別課題や試験を課すなどの方法を取っている。科目別の授業概要は表 1 の通りである。科目名に C のついた授業は上級レベル, B のついた授業は中級レベルである。多くの科目が秋期と春期で同一の授業概要 (目的) となっているが, 上級レベルの授業については, 秋期に履修した科目を春期に続けて履修できるように, 授業で取り上げるトピックやタスクの内容は期ごとに変えている。

表 1 総合日本語コース授業概要 (2017 年 10 月 ~ 2018 年 8 月)

授業科目名 (開講曜限)[担当]	授業概要
秋期: 読解 C2a (火 4)[藤田] 春期: 読解 C1a (火 4)[藤田]	文章全体の意味を捉えたり, 文章の細かい部分を読み取る練習をすることにより, 大学での学習や研究に必要な日本語の基本的な読解能力と日本語能力試験に合格するために役立つ力を身につける。秋期は『新完全マスター読解 日本語能力試験 N 1』(スリーエーネットワーク), 春期は『日本語能力試験徹底トレーニング N 1 読解』(アスク出版)を主教材として使用する。
秋期: 読解 C2b (木 4)[田中] 春期: 読解 C1b (木 4)[田中]	大学での研究活動に必要な専門書, 論文の読解能力の養成を目指して, 様々な話題に関する文章を読み, 仲間との対話を通して内容の理解を深める。さらに, 新聞・雑誌記事や教養書を要約し, その内容をグループで討論することによって, 批判的思考力を身につける。
秋期: 文法 C2 (木 2)[濱田] 春期: 文法 C1 (木 2)[濱田]	大学での学習, 研究に必要な上級の文法・表現を整理し, 多くの練習問題を解きながら習得する。日本語能力試験受験対策も行う。秋期は『日本語能力試験レベルアップトレーニング 文法 N 1』(アルク), 春期は『新完全マスター文法 日本語能力試験 N 1』(スリーエーネットワーク)を主教材として使用する
秋期: 作文 C2 (火 2)[松岡] 春期: 作文 C1 (火 2)[松岡]	論理的な文章を書くために必要な構成, 表現, 文法の基本を学び, 学習した項目を用いてまとめた文章を書くことで, レポートや論文を書くための基礎力をつける。文章を書く練習にはコンピュータを使用する。

秋期：聴解 C2 (水 3) [要門] 春期：聴解 C1 (水 4) [要門]	大学で講義を聞いたり、演習や研究会に参加したりする際に必要な聴解力や、日常生活に必要な聴解力を身につけるために、様々な種類の聴解練習を行う。日本語の聴解教材とあわせて、テレビやラジオ、インターネットなど、様々なメディアを用いた練習を行う。
秋期：会話 C2 (火 3) [松岡] 春期：会話 C1 (火 3) [松岡]	ロールプレイ等での会話練習を通して、大学生活や日常生活で出会う場面や状況での会話力を伸ばす。また、人や物、経験など様々なトピックについて日本語で的確に説明・描写する力、意見や感想を述べる力を養う。
秋期：漢字 C2 (月 3) [濱田] 春期：漢字 C1 (月 3) [濱田]	日常生活や大学の講義で用いられている漢字・漢字語の意味を理解し、正しく読み、使う力を身につける。プレースメントテストの結果をもとに選んだテキスト (『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字 1000PLUS』 Vol.2 (凡人社) 等) を用い、大学での学習、研究生生活に必要な漢字を習得する。
秋期：表現技術 C2 (月 2) [濱田] 春期：表現技術 C1 (月 2) [濱田]	目上の人や初対面の人とやりとりする、あるいは、不特定多数の人に対して情報発信する際に必要となる、フォーマルな場で用いられる日本語の表現、日常的・実用的な文章の書き方、日本語での口頭発表のスキルを習得する。
秋期：日本文化 C2 (水 4) [中河] 春期：日本文化 C1 (水 3) [松岡]	留学生として日本社会を分析する試み (情報の読み取り、整理など) を TV 番組、新聞・雑誌記事、自治体広報などの様々なメディアを用いてする。日本社会を読み解くための身の回りのリソースを活用する手だてを与え、そこから得たものを日本語で発信する力を養成する。
秋期：文法・表現 B2a (火 1・2) [高島], b (水 1・2) [中河] 春期：文法・表現 B1a (火 1・2) [要門], b (水 1・2) [田上]	指定されたトピックについて自分の力で話を組み立てていくことを通して、大学生活・日常生活に必要な中級の日本語能力を身につける。『ジェイ・ブリッジ』 (凡人社) を主教材として使用する。
秋期：文法・読解 B2a (木 1・2) [副島], b (金 1・2) [松岡] 春期：文法・読解 B1a (木 1・2) [副島], b (金 1・2) [松岡]	様々なトピック内容の読み物を日本語学習の教材とし、大学での学習や研究に必要な日本語の言語能力の基礎力をつけ、同時にトピックの内容などを通して考える力を養成する。『日本語中級 J301』、『日本語中級 J501』 (スリーエーネットワーク) を主教材として使用する。
秋期：文法 B2 (金 2) [小木曾] 春期：文法 B1 (月 1・2) [小木曾]	初級の文法を復習しながら様々なトピックの読み物を読み、中級への足がかりとなる文法を学ぶ。また、大学での学習や研究に必要な考えをまとめる力を養うために、各トピックについての作文課題などを通して書く力を養成する。『中級へ行こう』 (スリーエーネットワーク) を主教材として使用する。
春期：作文 B1 (金 3) [田中]	自分の考えを根拠を挙げて筋道立てて書けるようになること、また、協働的な活動を通して自律的な書き手となることを目指して、作文の基礎を学んだ後、意見文、要約文、説明文を書く練習を行う。
秋期：聴解・会話 B2a (月 2) [小木曾], b (火 3) [小木曾]	中級レベルに必要なオーラル・コミュニケーション能力を伸ばすことを目的として、話すことと聞くことに焦点を置き、ロールプレイ、ディスカッション、ショート・プレゼンテーションなど様々な活動を行う。
春期：聴解・会話 B1 (火 3) [田中]	中級の文法事項や語彙の習得を意識しながら、日本の大学で学生生活を送る上で必要となる日本語能力の中で、特に聴く力を身につける。友人同士、学生と教員、初対面の人同士の会話を聞き取る練習をしながら、口語的な表現への理解を深め、それらを場面や人間関係に応じて使えるよう練習する。
秋期：漢字 B2 (月 4) [濱田] 春期：漢字 B1 (月 4) [濱田]	日常生活や大学の講義で用いられている漢字・漢字語の意味を理解し、正しく読み、使う力を身につける。プレースメントテストの結果をもとに選んだテキスト (『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字 1000PLUS』 Vol.1 (凡人社) 等) を用い、大学での学習、研究生生活に必要な漢字を習得する。
春期：プレゼンテーション B1 (火 4) [濱田]	大学での学習や研究で必要となる、日本語での情報収集と基本的なプレゼンテーションの行い方を学ぶ。学期末に行う発表会に向けて、情報収集、発表原稿の作成、プレゼンスライドの作成を行う。

*1 限 8 : 45 ~ 10 : 15, 2 限 10 : 30 ~ 12 : 00, 3 限 13 : 00 ~ 14 : 30, 4 限 14 : 45 ~ 16 : 15

*1 回 90 分 (上級レベルの全科目、文法 B2、作文 B1、聴解・会話 B2ab・B1、漢字 B2・B1、プレゼンテーション B1) あるいは 180 分 (文法・表現 B2ab・B1ab、文法・読解 B2ab・B1ab、文法 B1) の授業を全 15 回行っている。

なお、学生による授業評価アンケートは、日本語課外補講上級及び中級クラスとまとめて実施した。授業評価アンケートの結果については、日本語プログラム授業アンケートを参照いただきたい。

6 成績評価

成績評価の方法については、成績評価の基準を授業概要に明記するとともに、オリエンテーションでも説明している。この基準をもとに授業担当者が、秀（90点以上）、優（80点～89点）、良（70点～79点）、可（60点～69点）、不可（59点以下）で判定を行うが、総合日本語コースの授業科目については単位が出ないことになっている。8月（留学期間が半年の学生については3月）に成績を記した履修証明書の発行を国際機構長名で行った。

7 学生からの評価

前述の通り、各授業科目に関する授業評価アンケートは日本語課外補講とまとめて実施し、これ以外に、総合日本語コース全体についてはインタビュー調査（実施日：2018年2月5日（月）、2月7日（水）、7月20日（金）、7月23日（月）～26日（木）、調査対象：2017年度日本語・日本文化研修留学生（4人）、協定校からの短期留学生（18人））を行った。この結果を表2に示す。

表2 総合日本語コースインタビュー調査結果

1. 総合日本語コース：科目について	<ul style="list-style-type: none"> ・十分だった。（18人） ・日本語の授業と専門の授業の時間が重なっていたので、日本語は3つしか取れなくて残念だった。 ・中級は少なかったが、上級は大丈夫だった。「文法・読解B」を受講したが、上級のように「文法」と「読解」で分かれているほうが良かった。「文法」は難しいが、「読解」はわかるので、別々のほうが効率的に勉強できると思う。 ・十分だと思うけど、もっと上のレベルを目指した授業もあったらいいと思う。 ・生活に関する日本語の授業があったらいいと思う。たとえば会話の授業が増えるといいと思う。
2. 総合日本語コース：レベルについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょうどよかった。（12人） ・上級の科目を選んだので、自分の力にぴったりだと思う。 ・全体的にちょうどよかった。科目は母国の大学と違うが、母国では単語や文法を中心として、ここでは会話や聴解の力が伸びた。 ・母国の大学より簡単で私にとってよかった。母国では日本語の古典文法の授業もある。 ・ここの授業は易しいほうがいいかな。ちょうどよかったと思う。 ・中級と上級を受けたけど、自分の力はその真ん中ぐらいなので、勉強がちょっと大変だった。 ・中級クラスはN3レベルで、上級クラスはN1レベルで難しいので、N2レベルのクラスがあったらいいと思う。 ・私にとって上級レベルはちょっと高かったと思う。日本語の知識は大丈夫だけど、秋期は日本の経済、歴史、文化などが難しいと思った。 ・「文法C」はちょっと難しすぎた。 ・上級クラスの授業も全体的にちょっと簡単だった。 ・漢字はもっと難しいものを勉強するクラスがあるとよかった。
3. 科目選択の際に重視したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の弱い点を伸ばすことができるような科目を選んだ。（4人） ・興味がある科目、自分の弱いところが勉強できる科目を選んだ。 ・苦手なところを選んだ。また、学部の先生から勧められた科目を選んだ。 ・まずは自分の苦手なところを選んだ。そして、先生の優しさとか先輩からの紹介で選んだ。 ・秋期は自分の苦手な科目、春期は前期の授業を受けた人の意見をきいて選んだ。 ・自分の能力で弱い点を強くしようと思って選んだが、文法の数はいくらでも覚えられないと思って、していても終わりが見えないから文法の授業は選ばなかった。 ・身につけたい能力のために、会話や聴解など弱い部分を補強するために、授業を選んだ。 ・日本語の能力を高めたいという点で選んだ。留学生と一緒に勉強することを楽しんだ。 ・先輩にその先生が優しいと聞いて、あとは時間割や自分の興味があるかで選んだ。 ・まず時間が空いているのか、次に私に役に立つかどうかで選んだ。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間帯がちょうどよかったのと、漢字が最初は読めなかったので、選んだ。 ・ まずは修了レポートを書くために作文を取った。それから、専門の時間と重ならないように、どのような能力を高めたいかということで選んだ。 ・ 生活で使える日本語を勉強したいと考えて、選んだ。 ・ 日本語が話せるように、他の人と雑談とか普通の話をしたと思って選んだ。また、専門の授業内容がわかるようにと考えて、選んだ。 ・ 将来仕事で使える授業と日常会話で役に立つ授業を選んだ。 ・ 最初は話す力と聞く力を勉強したかった。次は書く力と読む力を伸ばそうと思った。 ・ 自分がやりたい科目、春期は日本語能力試験を受けるから、能力試験のための科目を取った。秋期は自分の知識を高めるための授業を取った。 ・ まず日本語能力試験を受けたいから、その目標のために選んだ。あと母国で勉強する機会のない科目も選びたいと思った。会話の授業は日本のほうが深く勉強できる。上級向けの会話が母国ではない。 ・ 最初は時間割、2番目は内容で、自分のやりたい内容と合っているかどうかで選んだ。そして、単位があるかどうかについても考え、単位がない総合日本語コースの科目はそんなにたくさん取らなかった。
<p>4. 自身の日本語力について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伸びたと思う。しゃべることができる。昔はしゃべることは怖いと思っただが、今は怖いと思わない。 ・ 伸びたと思う。前より考えなくても話せるようになった。 ・ 伸びたと思う。聞き取りと話し言葉が伸びたと思う。 ・ 伸びたと思う。会話の授業で他の留学生と話し合っただ自分の意見も言えるようになった。 ・ 伸びたと思う。授業で日本語でスピーチやディベートをする力が伸びた。 ・ 伸びたと思う。会話能力が伸びた。特に、「読解」や「聴解」や「日本文化」の授業で話す機会が多かった。 ・ 伸びたと思う。会話や聴解の力が伸びた。「日本文化」の授業を通して日本人の気持ちをもっと理解できるようになった。 ・ 伸びたと思う。会話や作文の力が伸びた。 ・ 伸びたと思う。最初は作文を取っただ、書くのに必要なテクニックなどがわかったので、作文が進歩した。作文の練習は自分でできないので最初は下手だったけど、今は論文も書けるようになった。もともと会話は国でも日本人と話していたので、日本に来てあまり問題がなかったのはそのおかげだと思っただ。文法も作文の助けになった。 ・ 伸びたと思う。話す力と書く力が伸びた。前が全然書くチャンスがなかったので、レポートもそんな練習していなかったので、構成とかも勉強になった。 ・ 絶対に伸びた。もともと日本語学科でなくて、最初は日本語を話すのが怖かったけど、乗り越えて、こちらでの生活の言葉も話せるようになって、発表や書く力はまだだけ進んでいると思っただ。 ・ 伸びたと思う。特に日本人と話すときその内容がわかるようになった。読むときも知らない漢字が少なくなった。 ・ 伸びたと思う。読解能力が伸びた。以前N1を受けたときは、読解でいくつも間違えた。今回の結果はまだわからないけれど、普通に読むことができた。聞く能力も高まったと思っただ。ただ、専門の授業で日本語で話すチャンスは想像より少なくて、日本人の学生と友達になるような時間も専門の授業であまりなかった。 ・ 伸びたと思う。言葉遣い、敬語の使い方がだんだんわかるようになった。他には文法、話す順番とか動詞の使い方がわかるようになった。 ・ 伸びたと思う。漢字が読めるようになった。でも、しゃべることはまだまだで、国際機構談話室で日本人と話すときも、ずっと携帯で言葉を調べた。日本人の話すスピードが速い。 ・ 伸びたと思う。一番感じたのは読める漢字が増えたこと。ゼミやセンター（国際機構談話室）の日本の友達と話すうちに、自分の話すレベルもだんだんよくなってきた。 ・ 伸びたと思う。特に専門に関する語彙の力は伸びたが、日常生活の語彙はまだ難しい。 ・ 伸びたと思う。聴解の授業のおかげで、ニュースがもっとわかるようになった。まだ力不足のところもある。 ・ 伸びたと思う。聴解の能力も伸びたし、話す力も伸びたと思っただ。日本に来る前は漢字に自信を持っていたが、日本に来てからは手書きで書く機会が少なかったので、漢字を書く力については前のほうが自信があった。 ・ そんなに変わらないと思っただ。会話は少し伸びたと思っただ。 ・ N1の文法は勉強したけど、その文法は実際には使わないので、ちょっと難しいと思っただ。会話と読解と聴解の授業はおもしろかった。いろいろなことが勉強になった。会話能力も高められた。読解は下手だが、みんなとたくさん話して自分の意見を述べることも上手になったと思っただ。たくさん話したので、話す力は伸びたと思っただ。 ・ あまり伸びなかった気がする。もしかしたら昔の私と比較したら、わかるかもしれない。他人からすればもっと正確な情報が得られるかもしれない。

<p>5. 富山での留学生活について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しかった。 ・楽しかった。いろいろな友達と話し合ったりして充実していた。富山に来てよかった。大都市に行くと、同国人が多いし、語学の勉強にもよくないと思うので、留学するなら田舎のほうが良いと思う。4年間の留学だったら都会が良いけれど、1年間だったら田舎のほうが良いと思う。 ・楽しかった。もともと富山がどういうところかわからなかったが、来たら住むのにいいところだと思った。自然もあるし、空気もきれいだし。富山大学での勉強は専門の勉強にもなったし、日本語も進歩したし楽しかった。この1年は本当にかけがえのない経験だった。 ・当然楽しかった。いろいろな友達に会った。そして、先生たちもとても優しい。新しい視点から自分の生活を見ることができた。新しいものが見つかった。自分について新しい発見があった。 ・日本人の学生と他の国の留学生と一緒に交流して、たくさん話したので、とても楽しかった。いい思い出になった。富山の生活も暮らしやすいと思う。食べ物、空気、満足できた。 ・生活ものんびりして、先生も優しく、授業の内容もとてもおもしろかった。富山に来てよかった。 ・はじめて富山に着いたとき、緑が多くて静かな町だと思った。のんびりで心地よく生活できた。そして、学校での授業もとても充実して、時間も早く過ぎたと思う。富山の人は親切。 ・とても満足だった。個人的に日本語の能力は一部分高められたし、新しい同じ国の友達もできた。指導教員の先生は日本語が専門でないので、最初はびっくりしたけど、1人で生活するときは悩みもいろいろあったが、とても優しくしてくれて本当に感動した。 ・富山はとてもきれいな町だと思った。富山での生活で困るのは交通。特に冬。富山の人はまじめ。いろいろお世話になって、特にコンビニでアルバイトするとき、迷惑をかけたけど、みんな優しくかった。 ・よかった。生活はそんなに忙しくないし、物価もそんなに高くないと思うから。子供のころから地下鉄がある便利なところに住んでいたのだから、富山はバスとか交通機関が少なかったのが不便だった。1人暮らしもはじめてだったが、何かあったら指導教員の先生や両親に助けてもらったので大丈夫だった。 ・最初は都会が良いと思ったが、富山の生活に慣れると、田舎の雰囲気が良いと思うようになった。春の田んぼの風景とか東京ではこんな風景は見られないと思った。一般の人の日常生活を見る機会があった。会社員の生活だけでなく、農業をしている人たちの生活も見ることができた。富山からどこかに行くことは運賃とか高くなってしまっているのでそんなに簡単じゃないけど、富山のことは好きだ。 ・辛くないと思う。問題点は交通機関の不便さだけど、これは大学の問題じゃないので、仕方がないと思う。大学生活は特に問題なかった。 ・交通に対する不満がいっぱいあるが、それ以外はよかった。友達もできたし、実は国で専攻は日本語だけど、富山大学では経済学部で勉強して、大学院で学ぶ専攻について考えることができた。 ・富山は車があったらいいと思う。静かな雰囲気でもいいけど、去年と今年と天気が大変だった。それ以外は、留学して日本の文化とか祭りとか感じる機会が多くていいと思う。 ・寮が遠い。雪がいっぱい降っているから大変だった。いろいろな場所に旅行して楽しかった。金沢で着物を着たのがよかった。富山で日本人の友達できて、いっぱい話して、それが良かった。 ・天気以外はよかったと思う。天気が悪いとき、通学には本当に困った。 ・いい年に来た。雪も多くて、夏はとても暑くて…いいタイミングに。自分の国では経験できないときに…。でも、なんとかなった。特に問題なかった。食べ物も全部食べられたし。富山県内いろいろなところへ行った。 ・大変なことが多かった。富山の天気は今年は冬も夏も。でも、他に生活費もあまりかからないし、ありがたい。指導教員にいろいろお世話になったので、この1年間も楽になった。 ・夏は暑すぎて大変だった。それだけであとはとても楽しかった。富山は静かで、忙しくなくて、ゆっくりできていい感じだった。ただ、交通機関は不便だった。 ・富山はきれいなところだけれど、寒かった。電気代が高かった。国際交流会館と学校の距離が遠くて、雪が多くて大変だった。学校のバスがあったらよかった。大学での生活は、チューターはあまり話さない人で、とても楽しかったけど、チューターのほうから話すことが少なかった。優しすぎる人だったからだと思う。他の日本人の友達と話した。
------------------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・大変なことが多かった。車がないと行動しにくい。交通費も高いし、イベントの情報などを得るのが難しかった。日本文化体験のイベントももっとあったらいいと思った。学部によって留学生への対応も違う。日本語の授業を取るとき、どうしたらいいかわからなかった。国際機構談話室で日本人と交流したりできてよかった。授業で日本人と交流するのはみんな授業が終わったらすぐ帰るし難しいと思う。 ・少し残念なのは、今までの先輩、今度来る後輩は奨学金があったのに、今年だけなかったこと。天気も今年の冬と夏はどうして極端なのか。この他は大丈夫だった。富山の生活はゆっくりでいい。
--	---

まず、コースの開講科目数については十分だったという学生が多かった。次に、コースのレベルについてはちょうどよかったという学生が多かったが、中級クラスと上級クラスの間レベルのクラスを望む声も複数の学生から聞かれた。科目選択の際に重視した点として多かったのは、自身の苦手な点について力を伸ばそうと考えて選んだという回答が最も多く、他には時間帯、自身の興味、日本語能力試験対策のため、将来の仕事のため、日常生活のため、といった回答があった。自身の日本語能力については大半の学生が伸びたと答え、特に聞く、話す力の伸びを挙げる学生が多かったが、漢字・語彙力、読む力、書く力の挙げる学生も一定数いた。最後に、富山での留学生活については、静かな環境、豊かな自然、ゆとりのある生活、日本人学生や他の留学生との交流、周囲の人からのサポートを良さとして挙げる学生が多かった。一方、困った点としては、天候と公共交通機関の不便さを挙げる学生が多く、特に第14期は冬は雪が多く、夏は猛暑だったため、暑さ寒さへの不満の声が例年より多く聞かれた。

8 おわりに

総合日本語コースは、第12期より上級クラスに加えて新たに中級クラスの提供を始め、今回第14期はその3年目である。総合日本語コースは上級クラスの受講者が多く、第14期についても秋期は上級クラスが23人、中級クラスが3人（うち1人は上級クラスも受講）、春期は上級クラスが20人、中級クラスが5人（うち1人は上級クラスも受講）と、中級クラスの受講者は少なかった。しかし、7学生からの評価で述べたように、中級クラスでは易しすぎ、上級クラスでは難しすぎるという学生が一定数見られる。第13期の報告でも「上級レベルの科目は難しすぎるが、中級レベルでは簡単すぎるという学生が以前よりも増えているように思われる」と述べた。この中級クラスと上級クラスの間レベルの学生への対応が大きな課題である。そこで、第15期については試行的に春期開講の上級クラス「文法C1」についてレベル別に2科目開講することにした。今後もコース受講者の日本語力やニーズをアンケート調査やインタビュー調査を通じて詳細に把握しながら、よりよいコースを提供の在り方を検討していきたい。